

春期第4講

1

解説

X の正の約数の個数は $(5+1)(4+1)(3+1)(1+1) = 6 \times 5 \times 4 \times 2 = {}^7P_4 = 240$ (個)

Y の正の約数の個数は $(5+1)(4+1)(3+1)(1+1)(1+1)(1+1)$
 $= 6 \times 5 \times 4 \times 2 \times 2 \times 2 = {}^7P_6 = 1920$ (個)

X の正の約数の総和は

$$(1+2+2^2+2^3+2^4+2^5)(1+3+3^2+3^3+3^4)(1+5+5^2+5^3)(1+7)$$

これを S とすると、 Y の正の約数の総和は

$$S \times (1+11)(1+13)(1+17) = S \times 12 \times 14 \times 18 = 3024S$$

よって、 Y の正の約数の総和は X の正の約数の総和の ${}^7P_6 = 3024$ 倍である。

2

解説

(1) 百の位の数字は、0 以外の 5 通り。

十の位、一の位の数字は 6 通りずつあるから、3桁の整数は全部で $5 \times 6^2 = 180$ (個)

(2) 百の位が 1 または 2 である 3桁の整数は $6^2 \times 2 = 72$ (個)

30□, 31□, 32□, 33□ の形の整数は $6 \times 4 = 24$ (個)

ここまでで、 $72 + 24 = 96$ (個) なので、小さい順に 100 番目の数は、34□ の形の数で小さい方から 4 番目、すなわち 343

(3) □00, □01, □02, …… , □05 の形の整数は、それぞれ 5 通りずつある。

一の位だけで和をとると $(0+1+2+3+4+5) \times 5 = 75$

10□, 20□, 30□, …… , 50□ の形の整数は、それぞれ 6 通りずつある。

百の位だけで和をとると $(1+2+3+4+5) \times 6 \times 10 = 9000$

よって、求める和は $75 + 9000 = 9075$

3

解説

- (1) 男性の並び方は $4!$ 通り
女性の並び方は $4!$ 通り
男性と女性が交互に座ればよいから、 S_1 に男性が座る場合と女性が座る場合を考えて
 $4! \times 4! \times 2 = 1152$ (通り)
- (2) M_1 の両隣が F_1 と F_2 になるのは、 $F_1M_1F_2$ と $F_2M_1F_1$ の 2 通りある。
この M_1, F_1, F_2 をまとめて 1 組と考えると、この 1 組と F_3, F_4 の座り方は $3!$ 通り
また、 M_2, M_3, M_4 の座り方は $3!$ 通り
 S_1 に M_1 以外の男性が座る場合と、女性が座る場合を考えて、求める座り方は
 $2 \times 3! \times 3! \times 2 = 144$ (通り)
- (3) (2) と同様に、 M_1 の両隣が F_1 と F_3 , F_1 と F_4 となる場合も 144 通りずつある。
さらに、 M_1 が S_1 または S_8 に座り、隣が F_1 となる場合は、他の 6 人の並び方を考えて
 $2 \times 3! \times 3! = 72$ (通り)
以上より、 M_1 と F_1 が隣り合わない座り方は $1152 - (144 \times 3 + 72) = 648$ (通り)

4

解説

- (1) 10 個の文字のうち A が 5 個、 G が 2 個あるから
 $\frac{10!}{5!2!} = \frac{10 \cdot 9 \cdot 8 \cdot 7 \cdot 6}{2 \cdot 1} = 15120$ (通り)
- (2) 「NAGARA」と G, A, W, A の計 5 個の並び方を考える。
同じ A が 2 個あるから $\frac{5!}{2!} = 60$ (通り)
- (3) A 5 個、 G 2 個、 \square 3 個を並び、3 個の \square に左から N, R, W を入れると考え
 $\frac{10!}{5!2!3!} = \frac{10 \cdot 9 \cdot 8 \cdot 7 \cdot 6}{2 \cdot 1 \times 3 \cdot 2 \cdot 1} = 2520$ (通り)
- (4) A が隣り合わない並び方は、 N, G, R, G, W を先に並び、両端と間の計 6 か所から A の入る 5 か所を決めると考え $\frac{5!}{2!} \times {}_6C_5 = 5 \cdot 4 \cdot 3 \times 6 = 360$ (通り)
このうち G が隣り合うものを考える。
「GG」と N, R, W の 4 つの順列を考えると $4! = 24$ (通り)
両端と間の 5 か所すべてに A が入るので、 A は隣り合わないが、 G が隣り合うものは
 24 通り
よって、 A も G も隣り合わないものは $360 - 24 = 336$ (通り)

5

解説

4色の選び方は ${}_{12}C_4 = \frac{12 \cdot 11 \cdot 10 \cdot 9}{4 \cdot 3 \cdot 2 \cdot 1} = 495$ (通り)

底面に1色を固定すると、その他の3つの面の塗り方は、残りの3色の円順列で
 $(3-1)! = 2$ (通り)

よって、求める塗り方の総数は $495 \times 2 = {}^{\text{ア}}990$ (通り)

6色の選び方は ${}_8C_6 = {}_8C_2 = \frac{8 \cdot 7}{2 \cdot 1} = 28$ (通り)

上面に1色を固定すると、その対面となる下面の塗り方が 5通り

そのおのおのに対して、4つの側面の塗り方は、残りの4色の円順列で
 $(4-1)! = 6$ (通り)

よって、求める塗り方の総数は $28 \times 5 \times 6 = {}^{\text{イ}}840$ (通り)

6

解説

(1) 右へ1区画進むことを \rightarrow 、上へ1区画進むことを \uparrow で表す。

最短の道順は \rightarrow 4個, \uparrow 4個の順列で表されるから $\frac{8!}{4!4!} = \frac{8 \cdot 7 \cdot 6 \cdot 5}{4 \cdot 3 \cdot 2 \cdot 1} = 70$ (通り)

(2) AからCまで、CからBまでの道順はそれぞれ $\frac{3!}{2!1!} = 3$ (通り), $\frac{5!}{2!3!} = 10$ (通り)

よって、求める道順は $3 \times 10 = 30$ (通り)

(3) CからDまで、DからBまでの道順はそれぞれ $\frac{3!}{1!2!} = 3$ (通り), $2! = 2$ (通り)

AからCまでの道順は3通りであるから、求める順列は $3 \times 3 \times 2 = 18$ (通り)

(4) Dを通る道順は $\frac{6!}{3!3!} \times 2 = 20 \times 2 = 40$ (通り)

これと(2),(3)から、CまたはDを通る道順は $30 + 40 - 18 = 52$ (通り)

よって、CもDも通らない道順は $70 - 52 = 18$ (通り)

7

解説

$$x \geq 8, y \geq 4, z \geq 2 \text{ から } x-8 \geq 0, y-4 \geq 0, z-2 \geq 0$$

ここで $x' = x-8, y' = y-4, z' = z-2$ とおくと, $x+y+z+w=18$ から

$$(x-8) + (y-4) + (z-2) + w = 18 - 14$$

$$\text{よって } x' + y' + z' + w = 4 \quad (x' \geq 0, y' \geq 0, z' \geq 0, w \geq 0)$$

よって, 求める整数の組の個数は, 4個の○と3つの|を1列に並べる順列の総数と同じであるから

$${}_7C_3 = \frac{7 \cdot 6 \cdot 5}{3 \cdot 2 \cdot 1} = 35 \text{ (個)}$$

8

解説

(1) 3個の○と2つの仕切り|を1列に並べて, $A|B|C$ としたときの, A, B, Cの部分にある○の数をそれぞれの人に配る赤玉の数とする。

このとき, 3個の○と2つの|の順列の総数が求める場合の数となるから

$${}_5C_2 = \frac{5 \cdot 4}{2 \cdot 1} = {}^r10 \text{ (通り)}$$

(2) すべての玉を3人に配る場合, 青玉, 白玉の配り方についても(1)と同様に10通りずつあるから $10^3 = {}^11000$ (通り)

ここで, 玉を配られない人がいる場合を考える。

[1] 玉を配られない人が2人いるとき

すべての玉を1人に配る場合の数は 3通り

[2] 玉を配られない人が1人いるとき

赤玉のみをすべて2人に配る場合の数を考える。

(1)と同様にして, これは3個の○と1つの|の順列の総数であるから

$${}_4C_1 = 4 \text{ (通り)}$$

青玉, 白玉の配り方についても同様に4通りずつあるから, すべての玉を2人に配る場合の数は $4^3 = 64$ (通り)

このうち, すべての玉をどちらか一方に配る配り方は2通りある。

また, 玉を配られる2人の選び方は ${}_3C_2 = 3$ (通り)

よって $(64-2) \times 3 = 186$ (通り)

[1], [2]から, 求める場合の数は $1000 - (3 + 186) = {}^u811$ (通り)